

174 ○菊酒：①菊の花と葉とを黍米（きびの実）に入れて醸した酒。

『菅家文章』「393 夜雨」にも「通夜何因還悶意、尚書定妨早衙行」の句が見える。

▼菊花酒：菊の花と葉とを黍米にいでて醸して、來年の重陽の節に不祥を祓うために飲む酒。

『漢語大詞典』では「即菊花酒」と説明し、権徳輿の「過張監閣老宅对酒奉酬見贈」詩の「秋風傾菊酒、霽景下蓬山」の句を引く。さらに

▼【菊花酒】：「亦作「菊花酒」。酒名。一種用菊花雜黍米釀制的酒」との説明をし、『西京雜記』卷

三の「九月九日佩茱萸、食蓬餌、飲菊花酒、令人長壽、菊花舒時、並採茱萸、雜黍米釀之、至來年九月九日、始熟、就飲焉。故謂之菊花酒」の記事を引用する。また梁宗懷の『荆楚歲時記』に「九月九日宴會、未知起于何代：令北人亦重此節、佩茱萸、食餌、飲菊花酒、云令人長壽」の用例を載せる。

参考

▼菊水。①川の名。河南省内郷県の西北。古名は鞠水。水上に咲く菊の滴が川に落ちその川水を飲めば長命となるという。

▼「飲菊水」。(『藝文類聚』) 風俗通曰、南陽酈縣有甘谷、谷中水甘美、云、其山有大菊、水從山上流下、得其滋液、谷中有三十餘家、悉飲此水。上寿百三十、其中百餘、下七十八十者、名之大天。

▼『菅家文章』「40 九日侍宴、賦山人獻茱萸杖、應製」に「南山出處荷衣壞、北闕來時菊酒逢」の句が見える。

○後朝：翌朝。

『田氏家集』「141 九日後朝同賦秋字」に「莫厭後朝重勸醉、朝朝猶醉後朝秋」の句が見える。